

## 第2回磐田市子ども・子育て会議 会議録

開催日時 : 平成26年1月14日(火) 10:00~12:00  
出席者 : 委員10名  
事務局 : こども課、健康増進課、教育総務課

### 1. 開会

事務局より報告

事務局: 今後、午前中に会議を開始する場合は9時30分開催、11時30分終了とする。

### 2. 会長あいさつ

### 3. 報告・意見交換

(1) 磐田市未就学児人口推計結果について

磐田市未就学児人口推計結果について事務局より説明

<質疑応答>

委員: 地域によって異なる増加率がみられるが要因はどんなことか。

事務局: 変化率で増減をみているが、これから集合住宅などの建築の予定されている所もあるため、人口が増加する事が予想されるので、それを推計に反映している。

事務局: 通常、人口推計というのは、去年や今年の数にコーホート変化率法を用いて算出しているが、我々に入ってきている最大限の情報を直近に反映したいということで、まだ家はできていないが、そのエリアに何世帯くらい家ができるか、要するに市に正式に申請があったものを全部反映して数値を立て直している。城山区域については大きな区画の予定が正式に市に申請があったのでそれを見込んで計算したところ、ほぼ減少傾向にくるが、城山中学校区域については一時的に伸びるというような形になっている。

委員: 城山区域にはいつごろどのくらい増えるのか。

事務局: 市全体でみると、わかっている範囲でマイホームセンターがあった場所に100戸くらい増える。さらに城山中地区にゴルフガーデンがなくなり、商業エリアと住宅地ができる。今回の推計はこのような数値を加味して出している。

いつごろから建つのかというと、2年後くらいには家が建つと思う。その後区画のエリアを見ると、若い世代が取得できやすくなっているため、若い世代が住む可能性が高いことを考慮して、全ての世帯に子どもができたとして仮定して、最大値で推計している。

委員: 城山中学校区で人口が増えるということは、小学校の児童数も増えて、プレハブになるのか。

事務局: 富士見小学校区で増えている動きがある。その中でプレハブを使っている所もある。今後対応していきたい。

委員：増えていく期間をどの程度でみているのか。

事務局：5年間で計画期間をみている。最大で均等にみている。長期的に10年間のスパンでみる必要があるので、計画の中への反映レベルについては短期的な目標と中期的な目標について議論していただき、長期的なものについては人口推計やいろいろな情報を得る中で再構築していく必要があると思う。新しくできた区画にどのような人が住み、いつごろ出産し保育ニーズ・教育ニーズが必要になるのかという読みになるので、今回の数値データについては平均をかけながら算出している。一時的に伸びるところ落ちるところがあるかもしれないが、全体の推計としては高いラインで数字を出すように考えているので、今後議論していただきたい。

## (2) 磐田市子育てに関するアンケート調査結果について

磐田市子育てに関するアンケート調査結果について事務局より説明

### <質疑応答>

委員：3000人に発送し全体で70.1パーセントと高い回収であることに加え、0歳からどの年齢も回収率や数に偏りが無いので信頼できるものとして皆で議論していきたいと考えているが、それぞれの学年齢で500人ずつ発送したと考えてよいのか。

事務局：人口比率で抽出している。

委員：1つ危惧しているのは、P18の病気、怪我のところ。勤めている人は休みにくいというのはもちろんだと思う。しかし、病気や怪我のとき、子どもが心細い時に、赤の他人に看てもらおうこと、やむをえないこともあると思うが、でもそれは違うのではないかと。やはり、病気や怪我で辛い時、心細い時は、親が看るのが基本だということを意識してもらいたい。やむをえない事もあるので、センター等を作ったり手当てをするのは必要な事だと思う。でもそれがすぐできてしまったら「預ければいいや」というような事になってしまう。アンケートの回答は親の視点からしている、子どもの視点ではどうか、自分が子どもだった時に病気や怪我をしたら、お母さんがお粥を作ってくれたりやさしい言葉をかけてくれた時に、とても嬉しくて甘える事ができて、お母さん達もいつもはイライラしていてもその時だけはやさしく接することができて、その時こそ親子の絆を作る大切な時だと思うので、「そういうのは親として大切なんですよ」というのは言っていただきたい。

もう1つ、緊急時に頼る人が少ないというのも、幼稚園とか保育園とか小学校とかに入れるのではなく、もちろんやむをえない場合にはそれはサポート体制をとらなければならないが、何があるかわからない、たまたま遠出しているときに地震が起こって、迎えに行く事ができないということも有りうると思う。どういう信頼関係というか知人と困った時にお互いに助け合う関係を作っていくというのが大切なこと。どうしてもいないという人もいると思うので、サポートセンター等を充実させる事はある意味必要だが、一方では充実させてしまうと、自分の周りの関係が希薄にならないかなと危惧してしまう。本当に難しい問題だとは思う。

全部意見を讀ませていただいた。その中には申し訳ないが、わかっていない人もすごく多いと感じた。「幼稚園と保育園の違いがわからない」とか、「どこに支援センターあるか広報の仕方が弱すぎる」とか、そういう人たちは、自分が努力しようとしたのか。ただ待っているだけで文句を言うのはどうなのだろうなと思った。基本的には読んだ中で思ったのは、予防接種、幼稚園・保育園の保育料の補助、公立幼稚園の延長保育などは、検討していただくに値することなのではないか。しかしそれも同じ事が言えて、うちでも延長保育はやっているが、うちでは理由を全部書くし、緊急時の連絡先も記載してもらっている。そこを本当に公立幼稚園でやった時に、保育園に預けるより安いから幼稚園に入れて延長保育をやるといような事が起こったとすると、ちょっと違うのではないかなと思うので、基準のようなものをつくるべき。たまに息抜きは必要だと思うが、日常的に息抜きが必要だとなってしまうたら問題がある。

私が言いたいのは、子どもの立場に立っての意見も欲しいなど、読んだ中ではあまり感じられなかったので、市の方としても、ただ声大きい人の意見を聞くだけではなく、声大きい人に対しても「でも、こういうことはありませんか？」など助言する必要があるのかなと思った。

委員：学生を見ていると思う。すべてやってしまうとすべてやってほしいというジレンマがあるので、やはり親の事情を聞き出しながら、取っ掛かりを与えるというようになると、子ども目線も必要。

委員：病児・病後児保育は必要なのかなと思う。一般の人は幼稚園と保育園の違いもわからないのでは。現役で子どもを育てている人が困らないようにする為にどうすればいいか、できない人を支援することも必要。例えば窓口の一本化ができればよいのかなと思う。

委員：耳の痛い意見もあった。待機児童、病後児保育が気になった。病後児保育は私どもも切実に感じる。緊急時、お母様方が「何とかしてほしい」といような事がしばしばあって、どうしてそれを100%は受け入れることができないので、とても心が痛むことがある。周りでサポートしてくれる人を日頃から用意しているといいのかなと思うし、私達ももう少し多く受け入れることができるようにしたい。課題については乳幼児を抱えているご家庭への対応が求められている。病児・病後児については、何でもかんでも預けてしまうというのも、やはり親子の絆を保つ上では大切なことで「もう少しお母さん見ていただけないかな」と感じることもあるが、反対に、仕事を休んでいてはクビになってしまうということもあるので、受けざるをえない。

私が不思議に思ったのは、問18の定期的な教育・保育の事業の利用で、タイプB フルタイム×フルタイム、タイプC フルタイム×パートで利用していない人はどうしているのか。それと、タイプD 専業主婦（主夫）の26.9%が「認可保育園を利用したい」という回答をしているがどういうことか。

事務局：正確な分析はできていないが、タイプBとタイプCの方で事業を利用していないのは、祖父母に見てもらっているのではないかと我々は考えている。2点目の働いていない方が認可保育園に預けたいということについては、これから働きたいというニーズなのかなと

ということと、現在国で言われている、保育の基準というのが、就労時間が短縮しても預かれるよ、というように基準を変える検討している。そういうような意向で、少し用事がある人も預かってもらえるみたいなものから、選択されたのではないかと想像される。

委員：当たっているかどうかはわからないが、幼稚園でも、フルタイム×フルタイムの家も少ないが何件かある。その場合には必ず祖父母が同居しているか、同居していなくても祖父母から援助してもらえる。例えば、上の子は幼稚園に行って下の子は祖父母の家に預けて、というようなケースがすごく多い。もう1つは、先ほど事務局が言ったように、専業主婦（主夫）が保育園に預けたいのは、これから仕事がしたいということと、これは本当に大問題だが子どもをみるのが好きではないやりたくないというのも現実的にある。

磐田市では、月120時間が保育園の基準。ところが市町村によって異なっている。例えば、県西部で言うと菊川市が80時間、浜松市が100時間、静岡市は60時間。国が今検討しておそらく決まりそうなのが月48時間、したがって週12時間、日にすると2.5時間働けば、8時間の保育園に預けることができる。そこの所は磐田市には本当に頑張ってもらいたいと思う。やはり、預ければいいわけではなくて、関わった時間だけではないが子どもをみるのが今は大切な時である。「2.5時間だったら、はっきり言って幼稚園に預ければ十分でしょ？できるでしょ？」と思うが、それを保育園OKにしまうと、先ほどの話とリンクするが、預ければいいというようなことになってしまうので、磐田市には120時間が適切であるかはわからないが、少なくとも48時間を認めるのは待機児童の数が爆発的に増えるだけではなくて、親がある意味子育て放棄してしまう可能性もあることを踏まえておいてもらいたい。「今は関わらなければならない時期なので、その時期をしっかりと関わらないと子どもの心がしっかり育たないよ」ということ、デメリットもあるんだよということを理解してもらいたい。専門職を持っていてやむを得ない人がいるのは承知しているが、親がみるのが嫌だというのは、子どもがあまりにも悲しすぎる。

委員：幼稚園へのお迎えは祖父母が行っているのか。

委員：私立幼稚園は通園バスがあるので、バスの所に祖父母が迎えに来ている。

委員：今回は親目線のアンケート結果なので、子ども目線で子どものために考えられれば良いと思う。

委員：国で言っているのは、就職活動したいのに子どもを預けられない、就労時間が基準に満たないから延ばしている現状を何とかしたい。

委員：アンケートの意見を見て、病児保育のこともそうだなと思った。放課後児童クラブで関わっているが、量だけではなくて質も考慮してもらいたい。地域で立ち上がることも必要。地域で高齢者の生きがいとして子育てを支える。地域で解決できる仕組みを作ると親が安心して働けるサポートが出来るのでは。

委員：磐田市はまだ他の地域よりもコミュニティがあるので、親同士とか地域で支え合いながらできるとよいと思う。同世代や少し下の世代など、いろいろな世代と一緒に預けると社会性も身につくと言われている。

委員：幼稚園で延長保育を行っているのは何ヶ所あるのか。

事務局：豊岡南幼稚園・豊岡北幼稚園・豊岡東幼稚園の3つの園が豊岡北幼稚園に集まって実施しているのと、南御厨幼稚園で行っている。このような需要があるので平成26年から増やしていくことを検討している。

委員：幼稚園では延長保育を約10年前から行っている。牧之原の親交のある園が始めたということで、夏休み時期に見に行かせてもらって、どんな風にやっているか、親が子育てを放棄するようなことを手助けするような事をやってはいけないという事で、色々な形で見せてもらった。そして、2学期の間だけ試してみた。私の所では保育終了が14時、そして「14～15時までの1時間の間に降園して下さい」として、15時～16時50分まで延長保育を行った。1学期間で利用したのは、正確な数字は覚えていないが、160世帯のうち約30世帯。終わった時点で全世帯に対してアンケートを行った。結果、1人も残らず「続けて欲しい」との回答だった。利用する可能性は極めて低い。「下の子どもが病気になってしまうかもしれない」「上の子の小学校の参観会などの行事で遅くなる事がある」などで困った時に、子どもの事をわかってきている幼稚園に預かってもらえることは、とても安心感がある。利用するのは1年に1回もないかもしれないが、万が一の時は幼稚園に連絡すれば、延長保育をしてもらえるとという安心感がものすごく大きなものになるということで、全員が継続希望だったので続ける事にした。私の園の場合は15時～17時まで延長保育、それ以降は特別延長という形で最大18時まで預かっている。18時を過ぎてしまうこともあるが、その際は必ず電話連絡するようにお願いしている。「17時までと希望を出したが、様々な事情で17時を過ぎてしまうのでそのまま特別延長もお願いしたい」という連絡が入るケースもある。有料で行っており、延長保育は1回200円、特別延長はさらに100円プラスされる。それ以外に、日常的には受け入れていないが「旗ふり当番があるので早めに子どもを預けさせて欲しい」などの事情がある場合は7時30分から8時までお預かりしており、その場合の料金は頂いていない。月単位で行っていない。毎日前日までに書類を提出してもらうようにしている。ただし、突然何か起こる可能性もあるので「誰が見ても緊急性が高いと判断できる場合には対応します」としている。

委員：何かあった時に、セーフティネットがあるかないかで親のプレッシャーは随分違ってくると思う。複数の子どものいる家庭では延長は大切。値段は市内でできるだけ統一しておいたほうが良い。

アンケート結果のP12で、認定こども園が低いのはなぜか。理解できているのか。

事務局：実はこのアンケートを取ったときに、国から示された基本形がありそれをベースに組み立てた。「保育園を希望しますか？認定こども園を希望しますか？」という形の複数回答になっている。両方丸をつけている人が多かった。認定こども園にも入りたいし保育園にも入りたいというのはどういうことか、国から示されたものを取ったので最終的に国がデータを吸い上げる時に、そこに磐田市の分析結果を報告しなければならないので我々が議論した結果、磐田市には認定こども園がないこと、広報などで周知をしていない中で、市民が認定こども園を希望されているというのは、委員のおっしゃるように認定こども園の本来的な本質と内容を知らない中で回答していると思うので、結果として少ない数字になって

いるのではないか。今後、色々なメディアで公表したり、我々が認定こども園を発信していく中でだんだん需要が伸びていくのではないか。

委員：ひとり親家庭で幼稚園の希望が多いのはなぜか。私の勝手な考えだが、ひとり親はフルタイムという考えがあり、フルタイムならば保育園のニーズが高いのではないかと考えていた。

事務局：母子家庭の方の傾向としては、離婚すると実家に帰って生活をするというパターンが多い。やはり1人の給料でアパートに住んで子育てするのは苦しい生活になるので、子どもが小さいうちは実家に入り祖父母の元で子どもを幼稚園に預けたりする中で自分の生計を立てていくという選択をされる方が多数なのは事実なので、このような結果になったのではないか。

委員：掛川市でニーズ調査を行っており、その中に独自の設問を設けており「子どもを通わせている（通わせたい）施設」と「その通わせたい理由」、「保育事業の利用について、教育内容・保育内容・物的環境・所在地・保育料のうち何を重視しているか」、現在通っている人には「教育・保育内容が満足できているか」「保育料は高いと感じるか安いと感じるか」というような、かなり細かいところを付け加えて調査している。掛川市では委員会を行い、その中でニーズ調査に付け加えた方がいいもの、削った方がいいものを議論して、独自の設問を付け加える事にした。

親がどこを基準に子育てをしたいと思っているのか。要するにお金を基準にしているのか、預かる所を基準にしているのか、子どもを将来的にどういう子にしたいというビジョンを持っているのかという事を調査したいということで行った。

委員：自分が子どもをみる時間があるならば幼稚園という保護者が圧倒的に多い。時間を重視している人が多いのではないか。

事務局：「幼稚園のほうがちょっと教育っぽい」「保育園のほうが預けるっぽい」程度の認知があるのかなと思う。

委員：自分の子供を幼稚園に行かせている。何かしらの教育はしていただけるのではと思っている。

事務局：P9に、掛川市で聞かれているような内容に近い設問「平日に教育・保育事業を利用している理由」がある。「子どもの教育や発達のため」「子育てをしている方が現在就労している」など、掛川市とは取り方が合致はしていないかもしれないが、皆様の議論の参考になると思う。

委員：掛川市独自の教育を重視しているか、保育を重視しているかというところ、現在保育園は教育と保育を一体化してやっていこうと考えている。現在の保育園の利用基準は保育に欠ける人が入園の条件になっているが、内容に関しては保育園でも十分やっけていて幼稚園に劣らずにやっていると思っている。

先ほど話しがあった質の問題、待機児童を解消していくという所で、施設が増えていくと思うが本当にサービスの質は確保してもらいたい。最近、厚労省から過去5年間の事故のデータが出た。事故が多数出ている。

委員：認可・認証のどこに違いがあるのか、意味すらわからない人が多いと思う。ましてや、磐田の認証だと言えば「市がお墨付きを出しているんじゃない？」ぐらいに思っているのでは。事故が起きてからでは遅い。

事務局：磐田市はこども課になって窓口を一元化したことにより、3歳児以上の部分については保育園では教育面の比率がかなり高くなっている。愛着面や愛情面など子どもの心の居場所として、0～3歳児まではかけられる人はかけて、かけられない人は保育園でその代わりを行い、3歳児以上は幼稚園・保育園の区別なく同じように就学に繋がる教育を提供できることを目指している。

委員：磐田市は他の市町村とどこが違うかということを考えてみると、製造業が非常に多い。そういう面で働いている人がかなり多い。仕事と子育ての両立をサポートする事が大切。ただ、有効求人倍率は磐田市0.7倍で非常に低い。企業にアピールすることも磐田市らしさにつながる。

委員：もちろん誰かが欠けたらやりにくくなるに決まっているが、経営者の意識もあると思う。私の所で子どもがいる職員が5～6名いる。「あなたがどんな大切な事があっても、あなたの代わりはいるがお母さんの代わりはいない。代わりのいないことを優先するように。行事であろうと何であろうと、子どもの学校の行事と重なったらそちらに行きなさい。」と職員に言っている。経営者の方は、もちろん仕事で大事でそれで成り立っているが、そのような事情が1年に何度もあるわけではないので気持ちよく「いってらっしゃい」と言ってあげられるような、理解をすることが必要なのではないかということを考えてほしい。

委員：企業も理解しなければならない。そういうような事をする事で優秀な人が残る。だから企業の業績が上がるという事を方向づける必要があるのでは。優秀な人材が残るようにする必要がある。

委員：自分が育児休業を取ると思ったら、数年仕事を離れて遅れるというのはちょっと怖い部分もある。研修制度などがあればよいのでは。例えば3ヶ月に1回、育児休業中の社員を集めて会社の現状を伝えるというようなシステムがあると、またさらに育児休業を取りやすくなるのでは。

委員：十数年前は、子育て支援センターに預けるのに、美容院に行くためなど自分の都合で預けるということは考えられない時代だった。でも現在はどんな理由でも預かるというように時代が動いていくので、時代に合った対応をしていっていただきたい。磐田市にも認定こども園が増えていくことで、子どもに負担がかからないようになればいいと思う。先ほど委員がおっしゃったように、団塊の世代を地域の中で活用して、子育て世代に対する支援をしていきたい。

幼稚園で延長保育を進めていただければもう少し解決するのでは。

委員：認定こども園とはどういう施設なのか。

事務局：幼稚園と保育園の両方の機能を1つの施設にしようということ。具体的に出ているが、保育園で預かっていた子は、親が仕事を辞めてしまうと行き場所がなくなってしまう。そう

すると幼稚園に行かなくてはならなくなってしまう。新しい施設、新しい友達、新しい保護者、新しい先生になってしまう。それが認定こども園だと、同じ施設で同じ友達の中で同じように生活することができる。子どもにとって、それが最大のメリット。親にとっては、保育園は長時間預かってくれる、幼稚園は短い時間だとか、それも認定こども園の中で対応できる。国はそれを目指している。

委員：簡単に言うと、1つの施設の中で幼稚園と保育園の両方持っているということ。

委員：磐田市はそれが一体化するようになっていくのか。

事務局：将来的には認定こども園への移行も推進していきたい。

委員：施設側としては運営が大変。大変なだけでメリットがなくて進まなかった。今後の制度改正で解消されるようになる。やりやすくなる。

委員：認定こども園が普及しなかった一番の理由が、職員にメリットがなかったということ。例えば、「職員が幼稚園に入って3年やりました、その後保育園に移ります」これは、幼稚園を退職して保育園の1年目となる。文科省と厚労省で違うから、1回ごとに退職するような形になってしまうので、そうなってしまった人は貧乏くじをひいたような形になってしまっていた。それから、帳簿の科目は保育園と幼稚園で全部違うため、幼稚園・保育園・こども園と3つ帳簿を作らなければいけない。

そういう、大変なことばかりでメリットがなかったが、今後認定こども園の制度が変わることになって、すべてを継続できるとか帳簿の科目が統一されるとかすべてそのような形になり、かなりデメリットだった部分が解消されることになった。今後一気に認定こども園という形が増えてくると思う。

#### 4. 事務連絡

今後の予定、次回会議の開催は3月中旬～下旬を予定している。ニーズ量の算出を年内に。

#### 5. 閉会